

あーすまつり ～UP SIDE DOWN(ひっくりかえせ)～

社会福祉法人 ふらっぷ

〒574-0027 大阪府大東市三住町 2-1

助成事業の概要

実施目的：このイベントは日頃人前に立つような経験の少ない精神障がい当事者たちにスポットライトが当たるような機会を作りたいという思いから始まったイベントです。「UP SIDE DOWN」とは「ひっくりかえせ」という意味があり、こころの病について世間のイメージをひっくりかえしたいという思いで開催しました。近年では当事者家族の方々が多く来所し、新たな一面を発見される機会にもなりつつあります。

時期：2024年3月17日(日) 大東市立文化ホール(サーティホール)にて開催

内容：大東市民や他の障害福祉施設、大東市に限らず他市の関係機関や当事者家族、教育機関など対象を限らずに開催。当事者による音楽バンドの演奏や、フラダンスの発表、市民劇団の協力による朗読劇、作品の販売・展示などのイベントを実施。出演者を含めて約120名の方が参加されました。

事業の成果

毎年行われているこの事業ですが、年々パワーアップしていると感じています。まずは参加する利用者さん。今年は初めて参加したメンバーが多く不安な様子で練習を続けていました。職員や利用者の垣根を超えて、ああでもないこうでもない意見交換をしました。私達職員もたくさん悩みましたが、それ以上に利用者さんはもっと悩み、

不安とともに最後まで走りきってくれました。また最後までできたことで達成感を味わい成功体験になったと話しています。詩の朗読では初めて自分で作った詩を発表できた人、朗読劇では舞台上に立てないと思っていた自分がまさか主演として演技をした人、複数の演目に出て最後まで頑張れるかわからなかったけどやりきった人、参加した皆がそれぞれの達成感を感じています。今までなにかをやり切ることもなかった人たちが、達成したことにより「自分もできるんだ」と思ってもらえたと感じています。終わったばかりは「もう来年はええわ～」といいつつも、時が経てば「またしたい!」という声からこの事業は行われていくのです。

またその利用者さんのご家族にも大きな反響をいただきました。関係がよくないご家族が内緒で来られ「見る目が変わった」と話す家族もいれば、ある人は「こんなにもできる子だったとは思わなかった」といい涙を流すご家族もいらっしゃいました。この事業を通して新たな一面を知ってもらえたこと、関係性が少しずつ修復されていくこと、様々な家族関係が動いたことを目の当たりにしました。そのような場面に出会い私達自身も「やってよかった」と胸をなでおろしました。それだけでなく利用者さんの新たな一面を知ることができたとも感じます。本番に向けて頑張る姿、オリジナルの楽曲や詩を発表することで自身の思いを伝える姿を見て一緒にイベントを開催できてよかったなど、職員も「またしたい」と思わせてくれるのです。

今年もこころの病について世間のイメージをひっ

くり返せたのではと感じています。

■ 成果の広報・公表

大東市精神保健福祉を考える市民の会「ぶんぶん」にて発行される「ぶんぶんだより」にて当事業の報告を紙面に公表する予定です。職員だけでなく参加された利用者にも感想を聞き、また観客からの意見や感想を掲載したいと思います。会員である市民の方々に活動を報告し、次回に向けた意見の反映の機会とします。

また当日の様子を YouTube にて投稿し、観覧できなかった人にも見てもらえる機会を作ります。そして DVD を作成し医療機関や教育機関、関係福祉施設などに販売する予定です。売上はあーすまつりの資金やプログラム活動の運営費に活用します。インターネットや DVD 販売には個人情報配慮の上で、自身の体験談などを交えたものにする事で精神障害への理解促進に活用できるのではないかと考えています。

■ 今後の展開

これまで20回ほど続いているこのあーすまつりですが、年々参加者も増え参加者の顔ぶれもどんどん変わってきています。もちろんこの事業を開催するうえで「こころの病について世間のイメージをひっくり返す」ことを大切にしていますが、回数を重ねるごとに「利用者さんのご家族に見てもらい、こんなにもできるのだと知ってほしい」という気持ちで続けています。それは単なる啓発活動ではなく、これだけの人の感情が動く事業だと感じています。今後はこの感動を大東市だけでなく大阪府や全国に届けたいと思っています。もちろん地域の方々にもたくさん来ていただくための方法を模索し続けます。今後もこのあーすまつりをきっかけに地域で活躍していく利用者さんた

ちが、その地域で当たり前暮らしやすい環境になるよう活動を進めて行きたいと思っています。そのためには今あるつながりだけでなく新たなつながりを作っていくことで利用者さんと共に、こころの病に対する世間のイメージをひっくり返すことがこの事業の役割なのだと思います。